

idobata cafe

井戸ばたカフェ

2012.8/23 (THU) VOL.18

発行/『井戸ばたカフェ』編集室 〒270-1347 千葉県印西市内野1-13-5-501

TEL /0476-46-1600 FAX /0476-47-0839 e-mail/miltos-kogi@w5.dion.ne.jp

【idobata cafe データ】●発行日/隔月刊第4木曜日(2月・4月・6月・8月・10月・12月) ●配布地域/白井市、印西市 ●公共機関・店置80軒/白井市、印西市、栄町 ●配布方法/新聞折込 ●発行部数/37,000部

次号『idobata cafe』は10月25日(木)の新聞折込となります

みんなに
ちあーず プラス
cheers+!!

存在が肯定されるとき 人は輝く 精神障がい者の心強い伴走者 四方田清さんに cheers!

今月26日(日)、白井市文化会館でイタリアの精神障がい者を描いた映画「人生、ここにあり!」が上映される。上映の記念として、三十年余りにわたり精神障がい者の日常に寄り添ってきた順天堂大学先任准教授の四方田(よもだ)清さんが講演を行う。講演会より一足早く、我が国の精神医療の現状についてお話を聞いた。

立ち遅れている日本 日本の精神科病床数は世界一で18%を占め、平均在院日数も300日を超えダントツ1位だ。入院治療は必要のない、入院を余儀なくされている社会的入院者も少なくない。また10年以上の長期入院も相当数に及び、自分の意思とは関係なく強制入院させられている人もいるようだ。イタリアの精神医療と福祉を視察した四方田さんによると、映画の舞台であるイタリアでは、入院日数は最長一週間。退院後はケアハウスで暮らし、普通の生活に戻れるように支援する地域システムが確立しているという。「入院すると患者だが、地域では支援の体制が整えば多くの人は生活者として普通の生活が出来る」と四方田さんは話す。

「できること」に目を向ける 「精神疾患と上手につき合いながら生き生きと生活している精神障がい者も多い。仕事を持ち、結婚し子どもを産む人もいます」と見せてくれたのは、メンタルヘルスマガジン『こころの元気+』(地域精神保健福祉機構コンボ)。統合失調症やうつ病などを体験した人が、笑顔で表紙を飾る雑誌を手に「ねえ、この笑顔素晴らしいでしょう!」と微笑む。「ピュアな人が多く、それぞれに才能を持っている。「できないこと」ではなく、「できること」に目を向けることが大切」と語る。国内の多くの地でそうであるように、白井市、印西市においても精神障がい者を支える体制は、けっして整っているわけではない。施設があれば良いわけではなく、最終的には「人」を支えるのは「人」だと考える。まさにその「人」である精神保健福祉士として働き、優秀な人材を育てている今、四方田さんは大きなやりがいを感じている。

精神障がい者の社会的な復権のために奔走する四方田清さんに cheers!

(プロフィール)

精神保健福祉士。県内の精神保健福祉センターをはじめ、保健所や精神科病院などに千葉県職員として27年間勤務。

2009年より順天堂大学スポーツ健康科学部で精神保健福祉士の育成に携わる。

人生、ここにあり! 上映会

- 8月26日(日)白井市文化会館 大ホール
- 映画/1回目上映 10:30~12:30(開場10:00)
- 講演会/13:00~13:45

順天堂大学 スポーツ健康科学部
健康学科 先任准教授 四方田清氏

- 映画/2回目上映 14:30~16:30(開場14:00)
- 料金/999円(映画1回+講演会)

(障害者手帳所持者は500円)

【お問い合わせ】NPO法人ほれほれ・ちば

☎047-498-2400

映画紹介

1978年、イタリアでは「バサーリア法」(世界初の精神科病院廃絶法)の制定により徐々に精神科病院が閉鎖された。本作品は、1983年のミノノが舞台、それまで病院に閉じ込められていた患者たちを外に出し、一般社会で暮らせるような地域作りに挑戦した実話を基にしている。愛と笑いにあふれたとびっきりの人間賛歌。